

社会的インパクト評価の実践による人材育成・組織運営力強化調査の実施状況

平成 28 年 8 月 5 日
内閣府共助社会づくり推進担当

1. 本調査の位置付け

- ・本年3月にまとめられた内閣府の社会的インパクト評価検討ワーキング・グループ報告書において、「今後1年以内に着手すべき主な取組」の1つとして、「⑦評価事例（ベスト・プラクティス）の蓄積とピア・レビューの実施による知識の共有化」が示された。
- ・本調査は、日本において社会的インパクト評価の実践事例が極めて限られている中、評価事例の蓄積やそのプロセスの共有化を図ることで、社会的インパクト評価の普及を図ることを目的とするもの。

2. 本調査の概要

(1) 調査の内容

- 社会的インパクト評価を通じて事業の改善や組織の成長を図る成果志向の社会的企業が社会的インパクト評価の一連のプロセスを実践（ロジックモデル作成→インパクトレポート作成）することで、評価事例（ベスト・プラクティス）の蓄積を図るとともに、そのプロセスを中間報告会、最終報告会という形で広く公開し、課題やノウハウの共有化を図る。
評価実践に当たっては研究会有識者によるアドバイス、受託事業者のスタッフによる伴走支援を行う。
- 有識者による研究会において、全体の調査進捗状況の共有や課題の整理等を図り、中間報告会や最終報告会の内容に反映する。

(2) 調査の実施体制

- 受託事業者：新日本有限責任監査法人
- 協力事業者（再委託）：株式会社公共経営・社会戦略研究所
- 研究会
研究会有識者
岡本 義朗 委員 新日本有限責任監査法人 エグゼクティブディレクター
岸本 幸子 委員 公益財団法人パブリックリソース財団代表理事・専務理事 事務局長
北大路 信郷 委員 明治大学ガバナンス研究科教授
玉村 雅敏 委員 慶應義塾大学総合政策学部教授
塚本 一郎 委員 明治大学経営学部教授（座長）
馬場 英朗 委員 関西大学商学部教授

- 社会的インパクト評価実践団体
特定非営利活動法人 Switch（宮城県仙台市）
株式会社K2 インターナショナルジャパン（神奈川県横浜市）
特定非営利活動法人マドレボニータ（東京都杉並区）

3. 進捗状況

- **第1回研究会**開催（6月29日（水））
 - ・調査の実施方針を関係者で共有
- **事前研修会**の開催（7月11日（月））
 - ・社会的企業、有識者等が一同に会し、社会的インパクト評価に関する基本的な内容を共有するとともに、ロジックモデルの作成に着手
 - ・3つの社会的企業ごとに有識者のアドバイスを受けつつ、自社の事業のロジックモデルについてワークショップ形式で議論を行った。
 - ・事前研修会終了後、各社会的企業で有識者のアドバイスを受けつつ、ロジックモデルについて検討を深掘りし、インパクトマップを作成。作成されたロジックモデル、及びインパクトマップは第1回中間報告会（公開）で発表予定
- **第2回研究会**開催（8月2日（火））
 - ・各社会的企業よりロジックモデル及びインパクトマップ作成状況を報告
 - ・評価の目的を踏まえた上で、評価対象・範囲の設定や絞込みの必要性など活発に議論が行われた。
 - ・有識者よりいただいたアドバイスを踏まえ、社会的企業において中間報告会に向けてロジックモデル、インパクトマップの精査を進めることとなった。

4. 今後のスケジュール

- **第1回中間報告会**（9月2日（金）10:00~12:30、富国生命ビル第4セミナールームB）
 - ・各社会的企業よりロジックモデル及びインパクトマップを発表
 - ・検討過程で明らかになった評価を行う上で検討すべき課題、苦労した点、議論を通じて得た「学び」などについても報告予定
- **第2回中間報告会**（12月1日（木）予定）
 - ・各社会的企業よりデータの収集状況等を報告予定
- **最終報告会**（平成29年3月1日（水）予定）
 - ・各社会的企業よりインパクトレポートを報告予定
 - ※シンポジウム形式を想定